

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2023年11月17日
第45号

ボランティアの研修、交流を 全道大会 遠軽で

11月9日、10日、遠軽町で高文連の第20回全道高等学校ボランティア研究大会が開催され、奉仕活動部の5名が参加した。
1日目、全体講演はえづらファーム代表（江面暁人氏）が『「農」の可能性に挑戦、あらゆる垣根を越えて』と題し、農業や農村の持つ可能性を活かし、事業を展開していることを報告された。実践報告では当番校の遠軽高校をはじめ、本校を含めた各校の活動報告を聞いた。
2日目は12の分科会に分かれて、研修や交流を深めた。5人が参加した分科会について聞いた。



右から加藤大智（1-2）、坂井優友（2-2）、三影はつか（1-2）、進藤あおい（2-3）、ケンプ菜多理ジエン（2-2）

講演 農業の持つ可能性 えづらファーム

（遠軽町白滝）

江面さんご夫妻は30歳前に脱サラしてこの地で新規就農し、42ha（東京ドーム9個分）の土地でじゃがいも、甜菜、小麦、スイートコーンを栽培する。農家レストランforestate、住み込みボランティア、農家民宿、通販、加工、企業研修など農業を基盤に様々な事業を展開。ボランティアには年間200人が応



手話歌「世界が一つになるまで」を練習し発表した。初の手話体験だが、楽しかった。（ケンプ）



ハンドマッサージ 手から手へ優しさを伝える。気持ちの交流、リラック効果あり。お年寄りにもお勧めです。（進藤）



SDGs・フードバンク 遠軽高校の生徒が寄付を募り集めた野菜でかき揚げを調理し、試食した。美味しくできたが、かぼちゃを切るのが硬くて大変だった。（加藤）

募し、選考しているほどの人気だ。

就農したての頃は野生動物の作物被害や人手不足に苦労した。当初、農業に地域の人をパートで雇っていたが、労働者の高齢化も進む中、考えた。「農業体験はお金で換えられない貴重な体験」「人手があれば、なんとかなる」という発想の転換でボランティアを募ることにした。すると、外国人や学生の応募が多数あり、衣食住を提供して農作業を手伝ってもらうようになった。この農業体験を通じて、この地に移り住んだ人も3名いるという。

穏やかだが、充実した生活をしていることが伝わってくる語りだった。一つの職に縛られずに、自由に生きられる可能性があることを、その歩み方から教えられた。（写真・江面さんご一家・HPより）

外国人労働者サポートボランティア 老人ホームで介護の仕事をするスリランカの方と互いの国の遊び（福笑い、はさみ将棋）をして交流した。スリランカのカレーを試食したが、とても辛かった。相手の立場で、どんなニーズがあるのかを考えることが大切だと視野の広がる体験ができた。（坂井）



障害者スポーツ「ぼっちゃ」を体験 パラリンピックの正式種目にもなっているぼっちゃを初めて体験した。誰でも楽しめる競技で、ゲームを通じて、他校の生徒と仲良くなれた。（三影）

